

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

1	会議名	平成29年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会
2	日時	平成29年11月6日(月) 午後4時20分から午後5時20分まで
3	会場	本庁舎 共用会議室306
4	出席者	飯沼会長、丸山副会長、白井委員、大江委員、小松委員、保尊委員、 望月委員、森重委員
5	市側出席者	金井上下水道部長、高嶋経営管理課長、水谷上水道課長、三澤下水道課長、 小松管理係長、横山工務係長、大林維持係長、山本維持管理担当係長 麻田整備担当係長、飯田庶務担当係長、中島庶務担当係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成29年11月7日

協議事項等

○会議の概要	
1	開 会
2	部長挨拶
3	議 事
	(1) 平成29年度事業の実施状況について
	(2) その他
4	閉 会
○議事の概要	
	(1) 平成29年度事業の実施状況について
会 長	: 1番、平成29年度事業の実施状況について事務局から説明をお願いします。 (資料に基づき事務局から説明)
	<質疑>
会 長	: ただいまの説明内容について質問があったら、委員の皆さんの発言をお願いします。
委 員	: 施設見学の際にアクアピアでも質問したが、委託している分とアクアピアをお願いしている分と一緒に合算しての下水道料金なのか。
事務局	: 市内全域で下水道使用料は統一していて、水道メーターの使用量をもとに下水道使用料をお願いしている。その料金を全部集めて会計に入れているのが歳入である。歳出については、明科地域の施設は、市の施設なので包括管理委託ということで委託料を払っている。流域下水道は県の施設なので、維持管理経費を汚水量により按分したものを負担している。歳入と歳出を分けて考えなければならない。
会 長	: よいか。
委 員	: はい。
会 長	: 明科地区の施策が薄いというイメージがある。公平に事業を進めてもらいたい。
委 員	: 今の話は料金のことでデリケートな話である。委員のみなさんが頭の中が整理

できるような資料をまた出してほしい。

事務局：現状の施設を維持するのに経費がかかる。統廃合すれば、将来的な負担が抑えられるということになれば、料金のほうも抑えられる。使用料負担が上がらないような形で維持管理することを探っていく必要がある。下水道の経営にも関わってくることなので、審議会にも資料を提示しながら説明していきたいと思っている。

委員：全体にかかるお金とお金がどういうふうに区分されていて、その財源がどこから出ているかを委員のみなさんがしっかり分かったほうがいい。各家庭から集めている下水道使用料がどういうふうに使われているかの話をしてほしい。維持管理にお金がこれだけかかるから、料金は適切であるという話につながっていくと思う。簡単な資料を次回でいいので示してほしい。

事務局：今、説明した内容が29年度予算の歳出だけだったので、30年度予算の概要を説明する際には歳入も含めた内容で資料を用意したい。

会長：審議会委員のみなさんが分かるような資料と説明をお願いしたい。他に質問があればお願いしたい。

委員：統廃合の際に明科と流域下水道をつなげる工事をするのか。

事務局：将来に渡ってどのような形が有利かを現在、調査、検討をしているところである。つなぎこむといった結論には至っていない。

委員：つなぐにしても施設が老朽化して造り直すにしてもお金がかかるということか。

事務局：そういうことである。

(2) その他

会長：次のその他について事務局から説明をお願いします。

① 漏水調査の実施状況、有収率の向上について

(資料に基づき事務局から説明)

<質疑>

会長：ただいまの漏水関連の説明について質問があったら、発言をお願いします。

委員：水道管は掘らないといつ設置したものか分からないのか。管が古いことが分かっているならば、そういうところの優先順位を上げてやっていけばいい。

事務局：全体で1,000キロくらいの配水管があり、その内の3分の1の約330キロが塩化ビニル管になる。年間で耐震管に更新できるのが5キロ程度であり、更新していくにも相当の年月がかかる。布設年度は8割から9割が判明している。

委員：漏水調査の実施状況を見ると距離に比例して事業費がかかっているわけではない。優先順位を決めて、一気にやったほうが総事業費としては安くなるのではないか。

事務局：優先順位は決めてやっている。対象地域の住宅数や弁栓数、消火栓数によって金額が変わってくる。穂高は塩化ビニル管だけを調べればいいが、明科は全管種を対象にしなければいけない。状況を見てその地域にあった形で漏水調査を実施している。

委員：屋根の強度を増すのに塗装し直すことによって強度を増すようなことがある。同じようにせっかく掘るなら、取り替えなくても補強して耐用年数を伸ばしていく工夫はできないものか。

事務局：土木の工事費は高い。今使っている漏水探知機はある程度正確に分かるので、掘るのではなく初めは漏水探知機を使って調査を行っていききたい。漏水率で対処法も調べられている。漏水対策は機械を使って調べることと老朽管の布設替えを組み合わせながら実施していきたい。明科の場合には、民地を通っている水道管を道路に移すことや住居が少ないところでは消火栓から防火水槽に替えるなどのダウンサイジングをしていきたい。

委員：必ずしも取り替えだけではないので、いろいろな方法がでてきたら、そういう

のを先行して採用することでもっと安い方法があると思う。あらかじめ方法を決めなくてもいいと思う。

事務局：内側に樹脂を塗る再生工法はあるので、考慮に入れながら、経済比較して行っていきたい。

委員：旧町村の統合で管路情報も不十分であると思う。管の施工が悪いところは優先して、安い工法でありながら耐震性も考慮した形で布設替えするしかないと思う。三郷は1年の間に有収率が下がっているが、大きく変動した要素は何か。この状況では、なかなか改善しないと思う。有収率が改善することによってこれだけお金が助かるということを示して、布設替えを本格的にやっけていかないといけないと思う。大きな地震がきたときの被害を考えると早く布設替えできるようにみんなで知恵を出して考えていければと思う。計画にはいろいろ掲げられていて全般的にやるのは難しいが、漏水対策を集中的にできないかと思う。

事務局：全体的な話もある。避難所までは水が行くように基幹管路の整備をしたい。全体の中でのお金の配分が必要である。井戸から配水池までが耐震化されていない。優先順位をつけながら整備していきたい。

会長：他によいか。
(質問無)

② 下水道事業財政計画について

事務局：前回、指摘のあった部分を修正したので、資料の差し替えをお願いします。

委員：単位は千円だと思うが、どこかに入れるようにお願いしたい。

会長：他にあるか。
(質問無)

(閉会)